

第32期第3回理事会議事録

富士ゼロックス横浜みなとみらい事業所（N701会議室）

13:00～16:00

平成28年11月16日

1. 招集年月日 平成28年11月4日
2. 開催日時 平成28年11月16日（木） 午後1時～4時00分
3. 開催場所 神奈川県横浜市西区みなとみらい6-1
富士ゼロックス横浜みなとみらい事業所
4. 理事総数 10人
5. 出席理事数 10人（全員出席）
6. 出席理事の氏名
森下 修至、楠本 雅一、小川 裕士、上田 良信、佐々木洋之
榊原 宏洋、河村 武敏、渡邊 聖太、仲摩 朋子、徳門 聡佳
7. 出席監事の氏名
石井 晃
8. 議長の氏名
森下修至
9. 決議事項に特別の利害関係を有する理事の氏名
該当する理事はいない。
10. 議長選任の経過
定刻に至り司会者の事務局は開会を宣言し、続いて森下修至会長が開会挨拶の後、司会者は「定款第49条の規定により会長が本理事会の議長になる。」旨告げ、森下修至会長が議長席についた。
11. 定足数の確認
議長は司会者を指名し、出席理事数を報告させた。司会者は「本日の理事会は理事総数10人に対し、本人出席10人と定足数を満たしたので有効に成立する。」旨告げ、議案の審議に入った。
12. 報告事項
 - (1) 有馬全国大会報告
河村理事長は、大会の概要及び参加のお礼、今後の展望を述べた。
 - (2) 事業推進委員会報告
 - ・ e-ラーニング進捗状況
楠本委員長は資料をもとに現在までの申し込み状況を報告し、以前の理事会にて承認済みの割り当て数にしたがい、事務局より請求することを周知した。

但し、九州DSと沖縄県複写産業については合わせて30IDの割り当てであった為、両組合の調整でID数を決定し、事務局へ連絡するよう要請した。

- ・今年度調査事業について

楠本委員長の指名を受けて、佐々木理事は28年2月に実施したアンケート結果の概要について調査報告書案をもとに説明した。

その後、今年度の調査事業の重点方針について各理事の意見を聴取し、委員会で検討することとした。

(3) 確定拠出年金(DC)事業報告

業務管理室担当 小川副会長は、10月28日におこなったボード会議の議事録をもとに報告を行った。

代表事業主（日本ドキュメントサービス協同組合連合会）に厚生年金保険者が不在である件について厚生局より改善をもとめられており、今後の検討課題であることが報告された。

(4) 総務委員会・事務局報告

- ・山田前会長の旭日小綬章受章について

佐々木委員長より、11月9日にグランドプリンスホテル新高輪において勲章の伝達式および皇居にての拝謁が行われたことが報告された。

- ・上半期会計報告

eラーニング事業経費が出金済みの為、現状収支は赤字であるが、各協同組合へ割り当てのeラーニング受講費の請求計上後は黒字となることが報告された。

- ・全共済 生命共済事業現況報告

生命共済加入数が現在84人で、最低必要人数の100名を大きく下回っており、このままであれば本事業は年度末をもって廃止となることが警告された。

各協同組合においても組合員への紹介をして頂きたい旨、事務局より依頼した。

- ・名称変更に係る諸手続きについて（WEB、ロゴ・マーク、諸規定等）

今後の業界組織の在り方についての協議を踏まえて検討することとした。

(5) 各協同組合現況報告

- ・近畿複写産業協同組合河村理事長より、現況は変らないが、有馬大会開催にあたり次世代の方々が大会開催という目標のもと集結し、団結して事業を行えたのが大きな成果であった。

- ・情報創造事業協同組合榊原理事長より、共同受注事業については脱退した組合員が価格を抑えて落札したので収入は3割減となった。立て直しが課題である。北海道は4支部があるが広域であるだけに組合加入のメリットは何かを再考し、福利厚生事業として、ビアパーティ、ボウリング大会など親睦を中心に若い世代において友好関係を高めてゆきたい。

- ・東京ドキュメントサービス協同組合森下理事長より、新しいパンフレットを作成し再度勧誘を行っている。賛助会員も2社新たに加入して頂いた。
若い世代、次の世代が何をするか、どう伝えてゆけばよいか模索中である。
- ・九州ドキュメントサービス協同組合渡邊理事長は、有馬大会では所属組合員が沢山参加し集結できた。会費や経費の見直しをしている。12月に忘年会を兼ねて集まるので、会員の取組み方法を考えて来期に向けて勧誘をし、組合員を増やしていこうと協議している。
- ・沖縄県複写産業協同組合徳門理事は、組合員は4社で変わらずですが、賛助会員としてフジテックスが加入した。そこでロールペーパーの共同購買事業を行う予定。また、今後の活動方針をまとめて行きたいと考えている。

13. 協議事項

森下会長と楠本副会長から理事協議の主題について以下の提議がなされた。

- ・参考資料（『新たなる地平への挑戦』）に述べる如く「日本ドキュメントサービス協同組合連合会」への名称変更は自らの生存領域たる事業ドメインを再定義することである。
- ・それを支援・先導すべき業界全国組織の在り方について下記サブテーマにしたがって議論を願いたい。
 - ① 組織は不要か必要か
 - ② 不要ならば、どうする
 - ③ 必要ならば、その理由は
 - ④ 具体的な事業とは
 - ⑤ 事業推進の主体者は
 - ⑥ 今後の組織運営について
- ・本協議については議事進行を小川副会長に委ね、森下および楠本は席を外すので虚心坦懐なる意見を述べて欲しい。

両人の提案を受け、小川副会長を進行役として出席者それぞれが自由に意見を述べた。

- ・全国にまたがる業界組織の必要性については、以下の理由で全員が一致している。
 - (1) 情報共有の場としての価値
 - (2) 有力賛助会員とのコミュニケーション力と影響力
- ・一方で地域協同組合の弱体化ゆえの賦課金負担軽減を求める意見もあった。
- ・DS連が実体ある全国組織であるためにも加入地域や会員を増やすべき。そのための方策を講じる必要があるのでは。
- ・所属員の現場により近い協同組合の役割が重要。地域組織活性化のためにも、フィルターなき全国組織からの情報提供が必要。

- ・提供情報収集のためにも有力賛助会員との積極的対話を。そこから新たなサービスも生まれる。
- ・情報提供手段としての機関紙の更なる活用
- ・時間的制約はあるにしても、組織活性化のため次世代人材の交流・交換の場をつくれないうか。
- ・他組合が遂行している勉強会などの活動情報が開示・交換できる仕組みの模索。

その他様々な意見が述べられたが審議時間の都合もあり、次回理事会にて議論を継続することとして本件協議を終了した。

協議の最後に情報創造事業協同組合理事長である榊原理事より発言があり、次回DS連全国大会について、理事会での決定があれば主催可能である旨の意向表明があった。この件に関しても次回以降の理事会にて協議することとした。

以上をもって第32期第3回理事会の議案全部の審議が終了したので、小川副会長が閉会を告げ、午後4時05分に閉会した。

平成28年11月16日

日本ドキュメントサービス協同組合連合会 理事会

議長理事 森 下 修 至

出席理事 楠 本 雅 一

出席理事 小 川 裕 士

出席理事 上 田 良 信

出席理事 榑 原 宏 洋

出席理事 佐々木 洋 之

出席理事 河 村 武 敏

出席理事 渡 邊 聖 太

出席理事 仲 摩 朋 子

出席理事 徳 門 聡 佳

出席相談役 山 田 修 三

出席監事 石 井 晃

以上